

医学部(保健学科)

学位プログラム「放射線技術科学」

学位：学士(保健衛生学)

教育目標

大阪大学および医学部の教育目標を受けて、学位プログラム「放射線技術科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「放射線技術科学」では、高い倫理観と豊かな人間性を持ち放射線技術科学に関する高度な知識を有する医療専門職の養成を目指しています。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

- 高度な専門性と深い学識
 - 教科書や講義だけでなく実習やグループ学習などを通して基本的な医療知識のみならず先進医療のあらゆる分野に対応できる専門的な知識を教授します。
 - 講義を受動的に受講するだけでなく、自主的かつ積極的な学習を求めます。
- 教養
 - 高い倫理観と豊かな人間性を養います。
 - 健康と社会の関係を理解し、他人とコミュニケーションをとるための教養を養成します。
- デザイン力
 - 自分でものを考える能力や種々の問題を解決できる能力を養成します。
 - 将来実地臨床の医療従事者だけでなく、研究者としても活躍できるデザイン力を養います。
- 国際性
 - グローバル社会で活躍するために高度な専門知識・技術と語学力を基盤としてリーダーシップやサポーターシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学部のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「放射線技術科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「放射線技術科学」においては、高度な専門性と深い学識、教養、デザイン力、国際性を持った放射線技術科学の専門職の養成をめざすという基本理念の下、以下の基準を満たした学生に学位を授与します。

(学習目標)

○ 高度な専門性と深い学識

- ・放射線技術科学の専門的知識および技能をもち、チームの一員として行動できる。
- ・必要となる専門的知識および技能を得るために、主体的かつ継続的に学習する能力を持つ。
- ・自らの思考プロセスを第三者に伝達するための的確なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を持つ。

○ 教養

- ・放射線技術科学の専門職として高い倫理観と豊かな人間性を持つ。
- ・常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに行動できる。
- ・一般教養を身につけ、柔軟で横断的な知識を身につけている。

○ デザイン力

- ・放射線技術科学における新たな問題を解決できる。
- ・得られた情報を客観的に整理、分析し、科学的根拠の下に論理的に考察できる。

○ 国際性

- ・英語を用いて必要な情報を収集できる。
- ・専門的知識を総合的に活用しながら問題をグローバルな視点で位置づけできる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学部のカリキュラム・ポリシーを受けて、学位プログラム「放射線技術科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「放射線技術科学」は、全学共通教育で幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけます。専門課程では、放射線技術科学の理論と実践を科学的に追求し、高度の専門知識・技術を総合的に教育・研究します。わが国におけるこれら分野の知的拠点として、学問的進歩を先導し、その中核を担う指導的人材の養成を目標としています。

カリキュラム全体を通し、医療専門職としてふさわしい使命感と倫理観を自覚した医療のプロフェッショナルとして、目標の実現のために適正な医療技術の提供とそれに対する責任の持てる社会人を育成します。

具体的には、1年次では、共通教育系科目として教養教育科目、基礎セミナー、言語・情報教育科目、健康・スポーツ教育科目を、専門教育系科目として専門基礎教育科目を、専門教育科目として医療科学概論、放射線科学序説、放射線物理学などの入門的科目を学びます。

2年次からは生体の働きと仕組み、人体の解剖と画像表現、病気病態の映像化の方法、画像工学、医用工学、それらの理解のための実験実習などを学びます。

3年次にはさらにそれらの応用として、医用機器工学、核磁気共鳴学、画像医学、核医学、放射線腫瘍学、さらにはそれらの技術を習得するための演習・実験を学びます。ほとんどの専門科目の講義は3年次までに終了します。

3・4年次には次に述べる臨地実習と特別研究が主体になります。

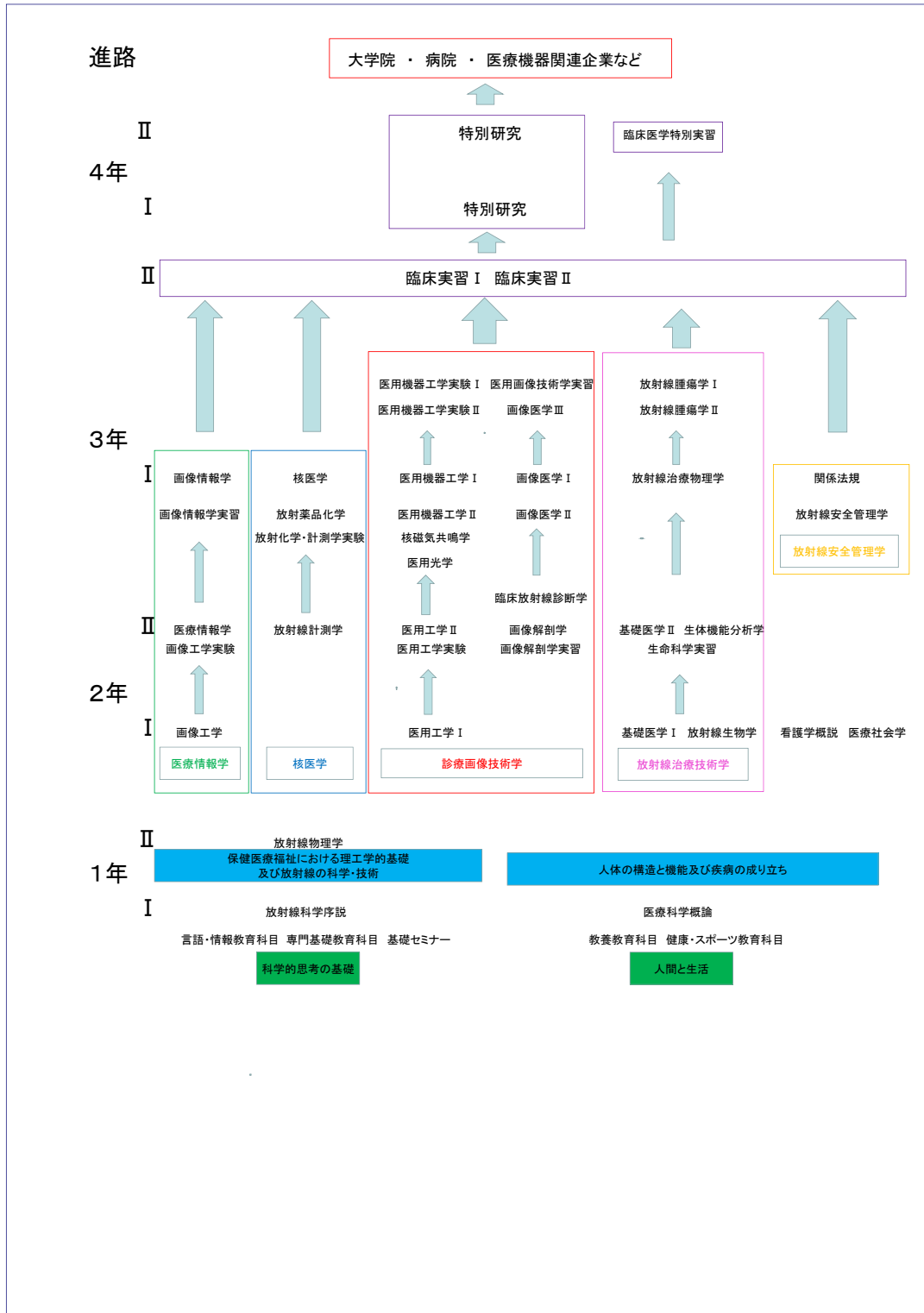
3年次に臨地実習が行われます。大阪大学医学部附属病院の放射線部にて、実際の診療に就いて、一般X線撮影、消化管透視、血管造影法、コンピュータ断層法、核磁気共鳴診断、核医学、放射線治療などの実習を行います。

4年次には大阪大学が世界に誇る高度救急救命センターにて実際の救急患者の治療、リハビリテーション部や老人保健施設での介護の実際、病院の重要な機能を受け持つ薬剤部、臨床検査部などでの実習など、現在の医療と患者さんとの関連を知る臨床医学特別実習があります。これらは放射線部とは直接関係のない部門ですが、それ故に臨床医学全体を知る機会でもあり、専門学校にはないカリキュラムです。

特別研究は4年次の1年間を通じて行います。配属された研究室で、課題を与えられ、教員の指導の下に、それまでの専門教育の集大成を目指し、自らの力で研究し論文を作成します。期末には特別研究論文発表会が、下級生も含めて全員参加の下に行われます。論文が完成し、発表が終了したときの達成感は格別であり、この経験は卒業後の仕事にも活かされ、就職先の病院や企業からも好評です。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学部保健学科
放射線技術科学カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学部のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「放射線技術科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「放射線技術科学」では実学としての医療科学を切り開くバイタリティー溢れる人、理論としての医療科学を追求する理想に燃える人の入学を期待します。今日、健康は一国の問題ではなく世界的視野にたって考えることが必要とされます。保健学科放射線技術科学専攻では、広い視野を持ち、国際的にも貢献する意欲を持った人を期待します。そして何よりも「人」に対して関心のある人、温かい目を持つ人を求めます。

その上で、下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験により入学させます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や技術能力を有している人
2. 保健医療科学の分野で自ら新しい道を切り開いていこうとする意欲を持った人
3. 他領域、他分野と協ししつつ保健学を実践することに興味がある人
4. 国際的視野にたって個人、集団を考えられる人
5. 高い倫理観と豊かな人間性を持つ人

このような受験生を選抜するために、大学入試センター試験、個別学力検査(数学、理科、外国語)および面接により、総合的に判断しています。

また、3年次編入学試験や帰国生徒特別入試、私費外国人留学生特別入試など、多様な選抜方法を実施しています。